

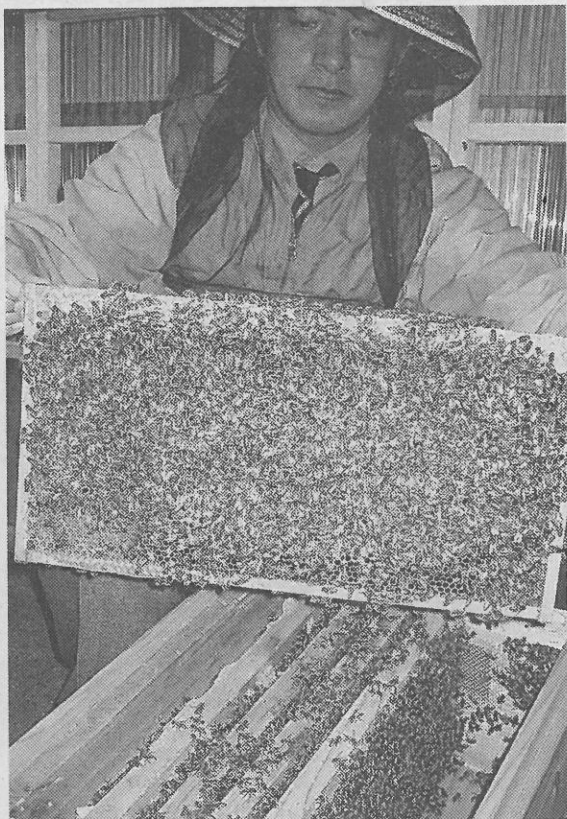
# 銀座のみつは甘くいぞ!?

東京・銀座のビルの屋上に、3万匹の西洋ミツバチが入った巣箱が設置された。名付けて「銀座ミツバチプロジェクト」。行動半径3キロのミツバチは早速、皇居のソメイヨシノ、浜離宮の菜の花などを飛び回っている。都心のわずかな自然から採れたはちみつは、新しい「銀座ブランド」となりそうだ。

設置したのは、銀座の街づくりや食文化を考える市民団体「銀座食学塾」と「銀座の街研究会」のメンバー。沖縄からミツバチを購入し「紙パルプ会館」（11階建て）の屋上に28日、三つの巣箱と木製のさくを置いた。

きっかけは、千代田区の社民党本部の屋上で、3年間に

## ビル屋上で3万匹



わたって20万匹のミツバチが飼われているのを知ったこと。パリのオペラ座の屋上で作ったはちみつが、ブランドとして定着していることも参考にした。巣箱は、はちみつ

が豊富に採れる5月末まで置く予定で、最大50キロ程度採れる見込みという。同プロジェクトの世話人を務める田中淳夫さん(49)は「はちみつは、銀座特製のカ

クテルやケーキ作りに生かしてもらいたい」と意気込む。アドバイザー役を務める東京農大客員教授で養蜂家の藤原誠太さん(49)は「銀座とミツバチという意外な組み合わせが、都会の人に自然の大切さへ目を向けてもらう契機になれば」と話している。

【榎部秀行、写真も】

ビルの屋上に設置されたミツバチの巣箱。ミツバチは、みつ集めに飛び回っている  
—東京都中央区銀座で